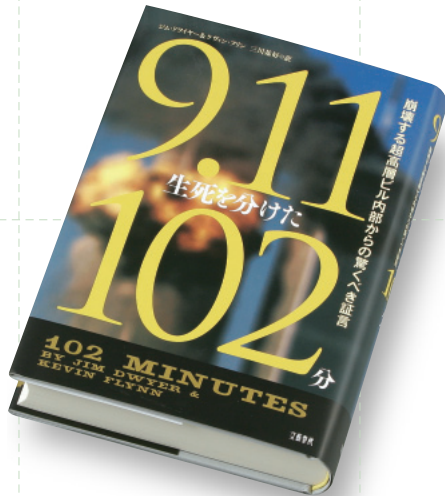


『9.11 生死を分けた 102分 崩壊する超高層ビル内部からの驚くべき証言』

9月11日のアメリカ同時多発テロ事件ルポルタージュが語る102分間
 皮肉にも危機管理センターは、崩壊したビルの中にあった

森山 和道(サイエンスライター)



ジム・ドワイヤー、ケヴィン・フリン 著
 三川 基好 訳
 ISBN : 4-16-367430-6
 定価 : 本体 1,800円 + 税
 文藝春秋

2001年9月11日、ニューヨーク、ワールドトレードセンター(WTC)への飛行機を使ったテロ事件。最初の飛行機が激突してから、ツインタワー2棟目が崩壊するまでの102分間を描いた一冊である。当時の生存者・関係者へのインタビュー、警察や消防その他の無線記録などを集め、あの中で何が起こっていたのか事実の点描で明らかにしていく。登場人物350人にのぼる力作ルポルタージュだ。

当時、何が起きているかよく分からないまま、2機目が激突し、ビルが崩壊していく様子をTVで見っていた人も多いと思う。そのとき、中はどのような状況だったのか。突然わけが分からない状況に直面させられた人間はどのように行動するの

か。なぜ内外の情報のやりとりがうまくいかず、一貫した対応が実施されなかったのか。

WTCは世界の情報通信の中心だった。情報をやりとりすることで大金を稼いでいた人たちが、自らの様子すら分からない大混乱に置かれてしまった皮肉。混乱は中だけではなかった。警察と消防の無線はつながれておらず、警察のヘリからの連絡は消防に連絡されなかった。NY市の危機管理センターはなんとWTC内にあり、機能を発揮する暇もなかった。なぜそんなことになってしまったのか。人間心理、都市や建設、情報通信アーキテクチャーの面からも非常に興味深い。現代人なら読んでおくべき一冊だ。

『ニッポンの挑戦 インターネットの夜明け』

インターネットを当たり前インフラにした男たち
 その苦勞をつづり、功績をたたえる

山川 健(ジャーナリスト)

例えばウィンドウズ95が発売される以前からインターネットにかかわっていた人たちにしてみれば、本書でつづられていることは半ば常識だ。

インターネットは、1960年代の東西冷戦下における米国の軍事目的からスタート。日本では村井純氏(現慶応大学教授)とその仲間によって実現され、最近では孫正義氏(ソフトバンク社長)がブロードバンドに血道を上げている。

村井氏は本書のインタビューで過去を振り返り、インターネットの費用を電気代や水道代と同じレベルにしなければならぬと主張した、と語っている。今ではインターネットは電気代、水道代のレベルになり、当たり前のインフラになった。

そう考えると本書は、電気や水道の普及に尽くした男たちの物語と同じ感覚の読み物といえる。

著者は、村井氏や孫氏などインターネットのキーパーソンへのインタビューをベースに、彼らの功績を時系列に取り上げ、「村井は仲間を作りながら世の中を変えていく。孫は敵を作りながら世の中を変えていく」など、示唆に富んだ分析を織り交ぜる。まさにNHKテレビ「プロジェクトX」さながら、男たちの苦勞話が展開されている。

現在、インターネットビジネスに携わっている若い層にとって、本書は先人たちの努力を知るための有益な歴史教科書になるだろう。



藤原 洋 監修
 松岡 美樹 著
 ISBN 4-903065-01-4
 定価 本体 2,200円 + 税
 RBB PRESS

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『インターネットは「僕ら」を幸せにしたか？ 情報化がもたらした「リスクヘッジ社会」の行方』

人々はやがて自由を失い、無線の力で支配される
誰もが無関心でいられない、ネット社会の暗闇

神野 恵美(欧州在住・編集記者)



森 健 著
ISBN : 4-7572-1170-8
定価 : 本体 1,600 円 + 税
アスペクト

タイトルが記すように、本書はインターネットが我々にもたらすリスクについて言及した一冊だ。我々は、その“陰”の部分をもなんとなく理解してきたつもりだが、本書はこれを具体的な事例で次々と挙げ、圧倒的な説得力で解説する。

本書を読み進めるにつれ、私はある種の自責の念に駆られたことを告白する。というのも、かつて我々記者たちは、例えば“ユビキタスコンピューティング”という言葉に多大な可能性を直感し、盛んにそれをもてはやしたものだ。もちろん、我々は技術には必ず危険性が伴うものであることを、化学兵器などの過去の産物がそれらを十分に示してきたように熟知していた。あえて言い訳するならば、我々

はネットが先の社会に落とす“影”を予感しながらも、その未知なる世界を想像する力が当時まだ不十分だったのだ。

著者は本書で多くのリスク事例を指摘するが、共通した一言でまとめるなら“自由さの消失”。既に我々はネットワークの中に組み込まれその恩恵を享受しているが、それは同時に我々自身が常に管理、統制されている事実を本書で理解するだろう。そしてその現実が我々にもたらす、精神的な圧力を想像するに違いない。

しかしながら、ネット自体は決して否定されるべき存在ではない。その功績や将来性は十分に賞賛に値する。著者はむしろ、それを疑いなく受け入れてしまった我々側の意識に変革を求めている。

『GOOGLE HACKS 第2版 プロが使うテクニック&ツール100選』

グーグルを使いこなす技を100のHACKに凝縮した「テクニック集」
初版の内容を大幅に改訂して再登場

斉藤 彰男(編集者、SE)

今や、120億以上のページが存在するというウェブ。その驚異的な普及は、検索エンジンがあってこそ実現したといっても過言ではないだろう。これまで数多くの検索エンジンが登場して淘汰を繰り返してきたが、中でもグーグルは驚くべき成長を遂げ、現在では、規模においても、また機能においても、他の検索エンジンを大きくリードするまでになった。

本書は、そのグーグルを徹底的に活用するための技を100のHACKに凝縮した「テクニック集」である。初版は2003年8月に発行され、このほど内容を大幅に改訂した第2版の発売となった。

この第2版では、初版の発行以降に登場した、グーグルが提供するフリーメール

「Gmail」、ユーザーのPCに保存された情報を検索する「デスクトップ検索」、グーグルの検索キーワードに合わせて低料金で広告を表示する「アドワーズ広告」、他のウェブサイトにグーグルの広告を掲載する「AdSense」などについてのHACKが網羅されている。

とりわけ、Gmailについては、電子メールアーカイブの検索方法、アドレス帳のインポート、PDAや携帯電話のブラウザでの利用方法、GmailのAPIなどに加えて、Gmailをリモートファイルシステムとして使うという「コロンブスの卵」的なHACKまで紹介されていて、単なるウェブメールではないという解説に納得することだろう。



タラ・カリシャイン、ラエル・ドルンフェスト 著
山名 早人 監訳
石川 隼輔、堀井 洋、村上 明子、
鹿島 久嗣、小柳 光生 訳
ISBN : 4-87311-233-8
定価 : 本体 3,200 円 + 税
オライリー・ジャパン



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp